

紋天鵞絨織

二重天鵞絨織

第二種

緯毛天鵞絨織

畝天鵞絨織

第拾六章
以上

織物の解剖

四一六

四二一

四二四

四二八

四三二

第二 別種	三五二
第三 別種 (重織の一 種)	三五五
第四 莫大小織	三五九
第三 経緯共に二重なる組織	三六一
表裏綴結法	三六七
第一 別種 (重織の一 種)	三七四
第二 別種	三七七
第三 ピケ織	三八一
第四 本畝織	三八四
第五 二重組織に於ける耳織の解	三八六
第六 重織	三八八
第七 撫織	三九三
第八 天鵞絨織	四一一
第九 天鵞絨織	四一二
第十 天鵞絨織	四二二
第十一 天鵞絨織	四二二
第一種 経毛天鵞絨織	四二二

三	繻子織と色糸との關係	二八九
第二	變化組織に於ける色糸の關係	二九一
一	變化平織と色糸との關係	二九一
	變化斜文織と色糸との關係	二九二
三	混合組織に於ける色糸の關係	二九四
第三	變化繻子織及び花崗織と色糸との關係	二九五
第一	經一重にして緯の二重なる組織	三〇二
第一	別種	三〇四
第二	別種	三一二
第三	別種 (重織の一種)	三一八
第四	本畝織	三二二
第二	經二重にして緯の一重なる組織	三三一
第一	別種	三四七
		三四八
第拾貳章	二重組織	

		一	變則繡子織	二四九
		二	重繡子織	二五四
		三	花崗織	二五五
		四	晝夜繡子織	二五九
		五	曇綢繡子織	二六〇
第四	特別組織	一	蜂巢織	二六三
		二	摸紗織	二六四
		三	糸瓜織	二六八
第一	混合組織			二七二
第一	組織と色糸との關係			二七四
第一	原組織に於ける色糸の關係			二八二
一	平織と色糸との關係			二八二
二	斜文織と色糸との關係			二八六
			六	

第二

變化斜文織

一

破斜文織

二

急斜文織

三

緩斜文織

四

曲斜文織

五

飛斜文織

六

撲斜文織

七

組斜文織

八

重斜文織

九

畫夜斜文織

十

飾斜文織

十一

山形斜文織

十二

疊綢斜文織

第三

變化繡子織

五

二〇二

二〇三

二一八

二二一

二二四

二三二

二三七

二四〇

二四一

二四三

二四三

二四七

二四八

片面斜文織 第一種	一七一
片面斜文織 第二種	一七二
片面斜文織 第三種	一七三
両面斜文織 第一種	一七四
両面斜文織 第二種	一七五
第八章 繡子織	一七七
綜続の數に依り飛數及び繡子織の數を知る法	一八四
第九章 變化組織	一九三
第一一 變化平織	一九四
第一二 緯並子織	一九五
第一三 重斜子織	一九六
第一四 飾斜子織	一九七
第一五 向斜子織	一九九
	二〇一

第一章	綜続の數を求むる法	一三九
第二章	經糸を綜続に通入する法	一三九
第三章	紋板の數を定むる法	一三九
第四章	紋板に栓を植うる法	一四〇
第五章	結束 正當なる圖式法	一四六
第六章	普通の轆轤仕掛けの綜続に適用すべき組織を鑑別する法	一五一
第七章	一本の經糸を二枚以上の綜続に通入する装置	一五五
一	織物の原組織	一六〇
二	平織	一六一
三	斜文織	一六一
四	繡子織	一六二
五	平織	一六三
六	斜文織	一六七

其二 下口の杼道
其三 中口の杼道

第八 空引機

第九 ジャクワード機

第四章 意匠圖の用法

第一 完全なる意匠圖を求むる法

(引込み方)

第二 総続の數を求むる法

第三 經糸を総続に通入する法

第一 別式
第二 別式

第四 踏木の數を定むる法

第五 足の附け法 (綫の釣り方)

第六 踏順を定むる法

ドビー機に於ける意匠圖の用法

一三八	一二八	一一一	一〇八	九九	九四	八四	八三	八二	七八	七四
-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----

增訂正織物組織篇

目次

第一章	經緯の組織
第二章	意匠紙
第三章	綜続の裝置
第一	唐確仕掛の綜続 (上口)
第二	人代を用ゐる轆轤仕掛の綜続 (全上)
第三	弓棚仕掛の綜続 (全上)
第四	唐確仕掛の綜続 (全上)
第五	轆轤仕掛の綜続 (中口)
第六	唐確仕掛の綜続 (全上)
第七	ドビー機 (全上)
其一	上口の杼道

六六 六五 五九 五五 五四 五二 三九 三八 二二 一二 一五 一 頁